

## 「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和5年2月10日（金）午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 県庁議会棟ほか（オンラインによる開催）
- 3 出席者  
＜参加学生＞  
信州大学1名、長野県看護大学2名、長野保健医療大学1名、松本大学4名、  
松本看護大学6名、飯田女子短期大学2名、信州豊南短期大学2名 計18名  
○丸山 栄一議長、高島 陽子副議長  
○広報委員 竹内 正美議員、寺沢 功希議員、清水 正康議員、和田 明子議員
- 4 開催内容 議場説明、意見交換・懇談、意見・感想等の発表
- 5 意見交換会テーマ  
＜Aグループ＞
  - ・人口減少時代の公共交通機関のあり方
  - ・県内大学生の現状と県活性化に向けた若者が果たす役割  
＜Bグループ＞
  - ・人口減少時代の公共交通機関のあり方
  - ・持続可能なまちづくり、コミュニティづくり  
＜Cグループ＞
  - ・県内大学生の現状と県活性化に向けた若者が果たす役割
  - ・子ども・子育て支援
- 6 参加者 24名（議員6名、学生18名）



## ○開会

(司会：高島副議長)

皆様、こんにちは。本日の司会を務めます長野県議会副議長、そして、広報委員会の委員長も務めております高島陽子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

## ○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(高島副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、丸山栄一議長から御挨拶及び県政報告を申し上げます。

丸山議長、お願いします。

(丸山議長)

ただいま御紹介をいただきました県議会議長の丸山栄一と申します。

本日は、『こんにちは県議会です』に県内各地から大勢の皆さんに御参加をいただきました。誠にありがとうございます。

私たち県議会には、県民の皆さんの思いや考えを県政に反映させたり、県政の適正な執行を監視するという役割がございます。本日は、皆さんが日々、学びや生活の中で感じていること、考えていることなどにつきまして率直な意見交換ができればと、参加議員一同大変楽しみにしております。

せっかくの機会を頂戴いたしましたので、少し時間をいただきまして、議会の活動の一部を2つの事例で紹介をしたいと思います。

初めに、県議会と県内大学の包括連携協定についてであります。

県議会と大学や短期大学とが地域課題の解決や魅力ある地域づくり、人材の育成に資するようにと協定の締結を進めております。令和元年10月に始まり、本日時点で8大学、3短期大学と締結をしております。本日御参加をいただいている学生の皆さんの学校とは既に結んでいたり、また、結んでいなかったりと状況は様々でございますが、今後も締結を進めていきたいと考えています。本日の意見交換もこの協定を基礎にして参加の御協力をいただいているところでございます。

次に、議会の発案による条例制定の取組を紹介させていただきます。

最近では、令和2年度に、2050年度までに二酸化炭素の排出量実質ゼロを実現するための、いわゆるゼロカーボン条例を、また、令和3年度には少子化の進行に対応するため、県民の希望をかなえる少子化対策の推進に関する条例を制定したところでございます。

今年度は、本県のすばらしい伝統工芸品をしっかりと未来につなぐための条例を制定しようと検討を進めております。

皆さんの大学のある地域でいいますと、例えば、南信には飯田の水引や信州紬、中信には松本家具や白樺工芸品、北信には信州打刃物や松代焼など、様々な伝統的工芸品がございます。暮らしに役立つ美

しい品々を世代を越えて伝えていくことが大切だと考えております。

このように、県議会は知事と共に、車の両輪として活動を行っているところであります。参加者の皆さんには、この意見交換を契機といたしまして、一層県議会や県政への関心を深めていただきまして、「自分自身が長野県づくりに参加する」という気持ちを持っていただくことをさらに期待をしているところでございます。

本日はよろしくお願い申し上げます。

## ○出席議員自己紹介

(高島副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。では、順次、私から指名しますので、お願いします。

県議会広報委員会副委員長の竹内正美議員。

(竹内議員)

千曲市・埴科郡区選出の竹内正美です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

広報委員の寺沢功希議員。

(寺沢議員)

安曇野市選出の寺沢功希です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

清水正康議員。

(清水議員)

上伊那郡区選出の清水正康です。よろしくお願い致します。

(高島副議長)

和田明子議員。

(和田議員)

長野市・上水内郡区選出の和田明子です。どうぞよろしくお願い致します。

(高島副議長)

出席議員の紹介は以上です。

今回御参加いただいた学生の皆様につきましては、恐れ入りますが、先日、メールにより配付をいたしました名簿により御紹介に代えさせていただきたいと存じます。

## ○議場説明

(高島副議長)

続きまして、私たち議員が議会の本会議を行う議場から議会の概要を説明しますので、お聞きください。議場説明を担当する竹内議員、和田議員、お願いします。

(竹内議員)

皆さん、改めまして、こんにちは。今、私たちがいるのは議場といいます。議員全員が参加して開かれる本会議をする場所です。

(和田議員)

議場で議会の全てのことを決めます。明治12年3月の第1回目議会から数えて、これまで427回の会議を開催してきました。

(竹内議員)

では、議会の審議の流れを簡単に御紹介します。

(和田議員)

本会議は、議長の進行で、初めに、知事から条例や予算など、議案の説明があります。

(竹内議員)

演壇で知事が発言されます。

(和田議員)

知事の説明を受けて、議員から議案やその他、県の仕事について質問をします。

(竹内議員)

議員の席は手前にありますが、質問をするときは、先ほどの演壇に行って質問をいたします。

さて、皆さん、長野県議会議員の人数はご存じですか。

(和田議員)

23の選挙区から57人が選出されています。

(竹内議員)

議員それぞれが地域のこと、長野県のことについて質問や提言をします。

(和田議員)

質問に対する知事等からの答弁の後は、さらに詳しく審査をするために、分野ごと設置されている6つの委員会に議案を振り分けて審査をします。委員会としての結論をまとめます。

そして、最後に、本会議へ委員会の審査結果を報告して、議決、可決すれば議案が成立して、県の施策として実行に移されます。

(竹内議員)

これが、議会が県の意思決定機関と言われる理由です。

条例などの議案は、知事からだけでなく議員から提案することもあります。

(和田議員)

最近制定した条例には、昨年度の歯と口の健康づくりで健康長寿を目指す条例、そして、県民の希望をかなえることができる社会の実現を目指して、少子化対策を推進する条例などがあります。

(竹内議員)

県の仕事については条例を制定、国の仕事については要望を行います。

(和田議員)

国への要望は意見書という文書で、議会で審議して可決したものは国に提出します。

最近の例では、「原油等物価高騰対策を求める意見書」、また、「高等教育における給付型奨学金の対象者の拡大を求める意見書」、そして、「地域鉄道の維持・確保に向けた支援の強化を求める意見書」などがあります。

(竹内議員)

いずれも国民の皆様の暮らしと命を守る対策を求めるものです。

県民の皆様などからの御要望や御意見は、請願書、陳情書という書面でいただき、審議します。

(和田議員)

請願、陳情は、皆さんの声を県の行政に反映させる大切な手法の一つです。

(竹内議員)

以上のように、定例会では、知事提出議案、議員提出議案、そして、県民の皆様などからの意見を審議します。

県の課題を解決したり、県のよいところをよりよくするために県議会の果たしている役割を理解していただけるとうれしいです。

以上で、議会の御紹介を終わります。ありがとうございました。

(和田議員)

ありがとうございました。

(高島副議長)

竹内議員、和田議員、ありがとうございます。

## ○進行方法の説明

(高島副議長)

それでは、意見交換の進行方法について御説明いたします。

これから3つのグループに分かれて意見交換を行います。グループごとに学生の皆さんから出された2つのテーマについて意見交換をお願いします。意見交換の時間はおおむね60分程度ですので、1つのテーマは30分程度で進めていただければと思います。進行は各グループの議員が行いますので、御協力をお願いします。

意見交換の後、14時45分頃から各グループで出た意見について学生の代表者から発表していただくとともに、同グループの議員からも一言感想をいただきたいと思います。この発表時間は、学生、議員合わせて7分程度をお願いします。

意見交換の進行についての説明は以上です。

本日実施した内容につきましては、録音、録画させていただき、概要を文書で取りまとめ、写真等とともに後日、県議会のホームページに掲載するなど、議会広報に活用させていただきますので、よろしくをお願いします。

なお、今回はオンラインということで、万全の準備はしておりますが、場合によって御不便をおかけすることがあるかもしれません。皆さんの御理解と御協力をお願いします。

それでは、事務局でグループ分けを行ってください。

## ○意見交換・懇談（A～Cの3グループに分かれて 60分）

### ○意見・感想等の発表

（高島副議長）

グループディスカッション、御苦労さまでございました。

それでは、各グループ、7分程度で、発表担当の学生さんと議員から意見交換の内容を、そして感想を発表してください。

それでは、Aグループから、発表担当の学生さん、お願いします。

（Aグループ学生①）

Aグループでは、公共交通機関の問題についてと地域活性化における大学生の役割について意見交換を行いました。

公共交通機関の問題については、それぞれ皆さん、自家用車、自転車、バス、電車などを利用して、大学等に通っていますが、そこで、公共交通機関の少なさというのが問題点として上がってきました。

例えば、通勤ラッシュ、帰宅ラッシュの時間だったりすると、電車に乗り切れない人が出てしまって、1時間に1本しかない電車に乗り切れないと、その1時間後の電車に乗らなくてはいけない人が出てきってしまうという問題があるということをお聞きしました。

そこで、まず、帰宅ラッシュの時間だけでも本数を増やすだとか、車両を増やすだとか、そういう工夫をしてもらえないか。また、そうやって電車が使いづらくなってしまうと、利用者も減ってしまって、また、それを受けて電車の本数が減って、よくないサイクルになっていくと思うので、まずそこを改善していったほうが良いという意見が出ました。

あと、自転車利用の方から、自転車の通る場所が少ないというか、通りづらい場所が多いという点が出ました。

自転車の事故が多かったりしますが、車道を走っていても車の邪魔になっているような気がするし、歩道を走っていると、歩行者の人とぶつかりそうになって危なかったりします。自転車が利用できないと通学に不便であるという高校生や大学生にとっては、やはり私が住んでいる市では、どこも道が狭く、自転車が通りづらいということがあるので、公共交通機関とは違うんですけども、自転車も通りやすい道ができるといいと思います。

地域活性化における大学生の役割というところで、まず、市内や県内の大学同士の交流がないというのが、まず問題で、大学生同士の交流があったらいいのではないかという意見が出ました。

県の活性化を若い世代がしていったほうがいいのだとしたら、やはり、大学内だけにとどまらずに、それぞれの大学が持つ知識や経験を共有して、何かイベントを行うとか、そういう活動ができればいいと思います。

あと、今回参加されている方で、図書館司書の資格を大学で取得されるそうですが、図書館司書の就職先が少ないそうです。図書館司書さんが地域の図書館で地域とのつながりを発信できるのに、その図書館が、あまり活用されていない。図書館だったり、地域と関われる機関が連携をし、情報発信の仕方を工夫していくことで、そこも若い世代が活躍できる場所になるのではないかという意見が出ました。

以上です。

(高島副議長)

次に、議員の感想ですが、丸山議長は後ほど、議長所感で述べていただきます。

和田議員、お願いします。

(和田議員)

Aグループの代表の学生さんにうまくまとめていただいたとおりです。

公共交通や自分の移動手段として使っているものが、本当に不便な状態だったり、通学時に、電車が混んで電車に乗り切れないために、1本前の電車に乗るために、1時間前に登校しているというようなこともお聞きしました。これからますます利用者が減るため、電車の本数が減らされる中で、利用者の皆さんの利便性をもっと高めていくことで、使っていただく方が増えるということも、もう一方で、よくわかりました。

また、若い人が実際のゼミの活動などを通じて、移動手段を確保することが難しいなど地域で暮らしている皆さんの様子を見て、自分たちはどういうことができるかということに取り組んでいるお話を聞いたのは、とても参考になりました。

今日はありがとうございました。

(高島副議長)

では、Bグループの発表担当の学生さん、お願いします

(Bグループ学生②)

簡潔にまとめさせていただきます。

私たちのBグループでは、主に2点について話し合いました。

1点目は、まず、公共交通機関について、前のグループと同じだと思いますが、これについては、学生自身が公共交通機関を日頃から使っていますので、本数が少ないだとか、あとはチケット代が高いとか、そういった問題意識を各々が抱えていることが分かりました。



その中で、より公共交通機関が使いやすく、住みやすいまちづくりにするためにはどうすればいいかというところで、学生に絞ってなんですけれども、学生の公共交通機関の利用料を無料にしてはどうだろうかという、そういった案が出ました。

これについては多くの大学生が賛成していて、様々なメリットが考えられるということで、例えば、具体例を挙げますと、市内を循環するバスがあれば、今まで行かなかった地域のところに赴いて地域を知ることができるだとか、公共交通機関の料金を節約できるだとか、そのようなことが挙がりました。

また、高齢者になったとき、公共交通機関がないと、免許を返納した後に足がなくなってしまって、長い目で見ると住みやすいまちにならないのではないかという、そういった懸念も出ました。

2つ目は、まちづくりとコミュニティづくりです。

まず、まちづくりというところで申し上げますと、問題になっています賃上げの問題だとか、あとは、経済を活性化させるためのイノベーションの創出だとか、そういった案が浮上しました。

賃上げに関しましては、私たちが、将来世代が日本で働く場所が、雇用がなかなか見つからなくなってしまうのではないかというところで、その具体的解決案として賃上げ問題、賃上げをするというところについてもすごく重要性を共有しました。

コミュニティづくりについては、様々な立場の人たちがそれぞれ必要としているコミュニティがあるということが分かりました。

例えば、学生ですと、勉強をする場所、ファミリーレストランだとか、そういう場所で従来は勉強してきた学生が多いと思いますが、それだと、毎度、お金がかかってしまったりだとか、学業にあまり専念できなかったりだとか、そういったことで、学生が集える勉強のためのスペースが必要という提案がありました。

あと、子育て世代にとって、子育ての情報が共有し合えるような、そういった集えるスペースも必要であるという認識を共有しました。

あとは、防災についてで、防災は普段から地域のコミュニティがあつてこそ成り立つものだと考えているので、やはり普段からコミュニティを、顔の見える相手とのコミュニティをつくることで防災にも備えられるのではないかという、オンライン時代だからこそ、オンラインばかりに偏るのではなくて、顔の見える相手同士、信頼の置ける地域づくり、そのようなものを目指していきたいという、そういった考えが出ました。

以上として、本当の意味で、人だとか、場所だとかいうものが生かされる、そんな環境を生み出すには何を考え続けていかないといけないのかという、そういう問題意識をそれぞれが共有することができました。貴重な時間をありがとうございました。

(高島副議長)

次に、清水議員、お願いします。

(清水議員)

Bグループの代表の学生さんがまとめていただきました。

少し補足するような形で報告させていただきたいと思います。

人口減少社会の公共交通機関のあり方ということで、Aグループと同じというような話もありました。やはり、本数が少なかったり、運賃が高かったりとかという部分でも学生にとって、少し使いづらいというお話、そういったことが行く行くその地域の住みづらさみたいなことにもつながるのではないかとというようなお話がありました。

副議長からありましたが、使わないから減便になり、減便になるからさらに使いづらいというような、そういう悪循環を生んでしまっているという部分では、皆さん、同じ考えだと思います。

特に学生はお金がないので、本数もあって、運賃が安ければ使いたいというような話もあったので、地域で公共交通機関が充実すると、若者にも選ばれる地域になるのかなと、個人的にそんなことも思ったりしました。

ただ、1点、ほかの方の意見として、運賃が安ければというのがあっても、路線によっては、やはり自分は車がいいという、そんな意見もありました。

公共交通機関は環境にいいので、もっとそういった部分を目的として大きくなっていいのではないかと。これは個人的に感じた部分です。

もう1点のテーマの持続可能なまちづくり、コミュニティづくりですが、その賃上げの話だったり、地域の人が集まるようなことをするためには、新しいイノベーションを何か起こさなければいけないというお話もありました。

コミュニティというような部分で、公民館のお話もありましたし、あと、学生としてやはり勉強できる場所、1人だけで勉強するのではなく、同じ目的を持った若者が集まって相談したりする。そういった気軽に行けるような居場所があってもいいのではないかとというようなお話があり、世代によって目的は違うかもしれませんが、地域に集える居場所があると、コミュニティづくりにもつながるのではないかと、そんなことを個人的に感じたりしました。

あと、先ほどもありましたが、防災士ということで、防災士の資格を勉強している方がいらっしゃいました。やはり、地域で若い防災士という方がこれから出てくるかと思うので、そういった若い防災士も地域で活躍できるような、そんな土壌があると、それも面白いのかなと、そんなことも思ったりしました。

あと、少し個人的にショッキングな発言だったんですが、教育学部に行かれています方が、友達と話す中で、やはり、教員を目指さないというようなお話がありました。それが部活動の長時間労働だったり、ワークライフバランスが少し疑問に思うような部分で、教育学部に行っても教師を目指さないというような話があって、我々の立場からするとショックだなというふうに思ったりしました。

皆さん、活発に意見を出していただきましてありがとうございました。

以上です。

(高島副議長)

では、Cグループの発表担当の学生さん、お願いします。

(Cグループ学生③)

Cグループは、県内大学生の現状と県活性化に向けた若者が果たす役割、子ども・子育て支援の2点について、話し合いました。

県内の大学生の現状等については、コロナのために実習に行けなくて、実習を知らないまま就職活動に移らなければいけない。そこについては非常に不安だという声があったり、教科書代があまりにも高くなるから、どうしても、気持ち的に余裕を持って勉強に専念できないという話がありました。そういったところは、例えば、これからコロナが過ぎたからこそ、色々な機会を設けて、学校に限ったことではなくて、自発的に取り組める機会があればいいのではないかという話になりました。

それ以外にも大学の先輩方と情報共有ができなくて、話が聞けないのが非常に自分たちも難しい現状だという声があったり、地域の人と関わる機会がないなどの話がありました。

コロナ禍をしのいだというか、生き抜いた我々の世代だからこそ、ここから先は色々取り組んでほしいということを感じました。

子ども・子育て支援についても、例えば、キャリアアップを目指すのに、支障をきたすのではないだろうかとか、それに関連して、団地の中でも空き家が増えたりという中で、色々問題が見えてきたというお話がありました。そういったところは、大学生が中心となって色々な活動を通して、関係を生んだりして、取組ができるようになっていく。さらには、地域の人とも協力して、子育てする世代を応援したり、自分たちが主体となって子どもに色々教えたり、そういった活動もできるようになっていけば、また、活性化にもつながるのではないかというお話が出ました。

それぞれの方が、色々な意見を出してくれました。うまくまとめられなかったですが、今回のこの機会に、他の大学の人のお話も聞いたりして、自分の視野が少し広がったように感じます。非常に有意義な機会だったと思います。

以上です。ありがとうございました。

(高島副議長)

次に、竹内議員、お願いします。

(竹内議員)

Cグループの代表の学生さんに上手にまとめていただきまして、そのとおりです。

先ほどお話にあった教科書代の負担が非常に大きくて、数十万かかってしまうため、学びたいが、経済的なことが理由で学ぶことができないという切実な声があったので、これは、何か私たち議員も考え

ていかなければいけないと感じました。

また、実習についてです。やはり、社会に出る前に、啓発的な体験ができないまま社会に出てしまうというのは本当に気の毒であって、フォローできる仕組みを私たちも考えたいし、皆さんのアイデアをいただいたら、実現に全力で取り組まなければいけないと思っています。

同窓生の方とも、地域の方とも全くコロナで交流ができなかったということで、改めて人と人の交流が非常に大事だということを実感されたという声も伺いました。

それから、子ども・子育ての件です。育児休業を取ったりすると、キャリアダウンになってしまうというような考え方をしなくていい、しっかりと育児休業を取ってもキャリアの分断にはならない、そういう社会も私たち議員は、しっかりつくっていかねばならないと思っています。

それと、子ども・子育て支援をテーマに選んだ理由について、長野県がひきこもりや不登校や自殺が非常に多いということに衝撃を受けたというような声もありました。そのためには、やはり先ほどから出ているように、色々な困難を抱える方たちが、気軽に集まれる場をつくるのが大事ではないかという意見が出ました。図書館司書の勉強をされている学生さんからは、そういう意味では図書館には無限大の可能性があって、色々なコミュニティづくりに使っていけるのではないかという御意見をいただきましたし、県営の団地で空いている部屋がたくさんあるので、そこを学生が住めるようにするだけでなく、そこへ学生が住んで、団地の内側からそういう困難を抱えていらっしゃる方のサポートもできたらいいなという意見もいただきました。

いずれにしても、今日、学生の皆さんから大変、有意義な御意見、私たちには考えつかない御意見をいただきました。ぜひ、皆さんがこんな企画をやってみたいというようなアイデアがあれば、私たち議員は、もう全力で応援しますということをお伝えしたところ、どうやって連絡を取ればいいですかとおっしゃったので、ぜひ、今日、この『こんにちは県議会です』に参加した議員には気軽に声をかけてくださいとお伝えしてありますので、議員の皆様方、ぜひ、そういった相談があったときは温かく全力で支援してあげていただけたらうれしいなと思いますし、私もそのように対応させていただこうと思っています。

今日は大変多くの課題をいただきました。ありがとうございました。

(高島副議長)

次に、寺沢議員、お願いします。

(寺沢議員)

Cグループの代表の学生さんの発表、それから、竹内議員の感想のとおりでありました。

本当に実習ができずに就職に向かっていくという、その不安は本当にそのとおりだなと思いました。コロナのために実習に行きたくても行かれないという状況だったということですので、何とかこのコロナが収まってきた中で、今、また、経験が出来なかった部分を何とかフォローできる、そういう仕組み

もつくっていかねばいけなかつたと思つた。教科書代、それから実習費、副資材の費用という面については、今回、この看護を学ぶ皆さんが私たちのグループには多かつたんですけども、特に看護の部分で学ぶ生徒たちは、ほかの学生から聞くよりも約2倍の費用がかかっているという現状ださうです。こういった部分は、やはり目指す先に差が出てくるような状況、あるいは、今のその格差の中での学ぶという状況でありますので、やはり行政がしっかりその辺は支援する仕組みを築いて、ぜひ、地域で活躍していただける人材を育てていかねばいけなかつたと思つた。

それから、子ども・子育て支援の部分では、先ほど竹内議員からありましたように、やはり、キャリアアップについて、育児休暇というのは不利になるのではないかというような懸念を抱く学生からの意見がありました。

竹内議員から、自らの経験、本当に子育てをしながら頑張っていた姿を語っていただいて、今日、聞いた学生たちは本当によかつたのではないか、そういうことができるんだ、諦めずに、そういう世界があるんだということが分かつたと思つた。

そういった中で、やはり県の支援体制もありますし、企業がそれに乗って、決して不利にならないような状況をつくっている、そんなことが広まっていますので、ぜひ、そういった企業がもっと広がって、皆さんが働きやすい環境ができればと思つた。

それから、子ども・子育ての支援と同時に高齢者の支援というところで、先ほど話がありましたけれども、県営住宅に学生が住んで支援していったらどうだというような取組、そこから皆さんに何か地域とのつながり方というか、何かアイデアありますかとお聞きしましたら、沢山、皆さんからアイデアが出されました。若い人たちは、地域となんかつながりたくないだろう、そんなことを頼んだって迷惑なんだろうというのは、実は大人たちの勝手な思い込みだけなのかもしれないと思つた。

逆に言えば、つながっていきたい、きちんとみんなで地域をつくっていききたいというふうに思っているんだと感じたところですし、大変うれしい時間でありました。

先ほど、竹内議員がおっしゃいましたけれども、学生の皆さんに、今日参加している議員の皆さんに気軽にそのアイデアや御意見や文句をSNSやメールで伝えてくださいということをお願いいたしました。皆さん、今日から忙しくなると思つた。スマホに情報が沢山入ってくると思つた。ぜひ対応をしていただければと思つた。

今日は有意義な時間をありがとうございました。

## ○全体の意見交換

(高島副議長)

今の発表も含め、せっかくの機会ですので、何か発言したい学生の方、いらっしゃいますでしょうか。発言される方は、カメラに向かって挙手をしていただき、併せてマイクをオンにしてお名前と発言したい旨を伝えてください。私が指名しましたら、発言をお願いします。

せっかくですので、この際、いかがですか。言い足りなかった方、学生さんを中心にお願いしたいと思います。

(学生④)

先ほど、チームの話合いのときに言い出しそびれてしまったことをこの場を借りて少しお話しさせていただきます。

チームの意見交換の中では、若い人が主体になってというふうにお話をしていたんですが、個人的な考えとして、お年寄りも地域の中では非常に財産的なものだと考えています。というのも、お年寄りのほうが、もちろん若い人よりも長く生きてこられて、経験も十分積んだ方なので、若い人が発信するだけでなく、お年寄りの世代からも情報を発信していく機会があると、お年寄りのモチベーションアップにもつながるし、やりがいにもなります。もちろん、地域の若い人たちとの交流の場も生まれます。お年寄り目線での活動というのも非常に大切だと思います。これから、高齢化社会が進む中で、お年寄りはどんどん増えていきますが、逆に、増えていくことをよいことと捉えて、地域に財産が大勢いらっしゃるんだから、その多くの人に発信してもらおうようになっていくと、若い人だけでなく、お年寄りもやりがいというか、さらに生きがいを持って生活していけるのではないかと思います。そうすると、お年寄りの孤独とかも減って、若い人たちも亀の甲より年の功で、相談できる人も増えて、地域の中も少しは循環していくのではないかと考えています。

以上です。

(高島副議長)

関連でも、また別のお話でもいいので、いかがでしょうか。御発言されたい方は挙手でお願いします。

(学生⑤)

今まで話題に上がっていなかったことでお尋ねしたいですが、長野県のゼロカーボン戦略についてお聞かせいただきたいです。

長野県のホームページに「長野県のゼロカーボン戦略のポイント」が掲載されていますが、長野県のゼロカーボン戦略の温室効果ガスの排出量と再生可能エネルギーの生産量について具体的に書かれています。

温室効果ガスの正味排出量のところで、2030年までに排出量の6割減を目指すというところで、その中の項目、最終エネルギー消費量、これが2050年までに7割減ということで、かなり野心的な数値を打ち出していると思います。もう一つの項目、再生可能エネルギー生産量、これは2050年までに3倍増となっています。

これを見て思ったんですが、長野県の人口、推定ですけれども、このままいくと、恐らく2050年までに2割ぐらい減ると仮定しまして、人口が減りますと、それに従って使用するエネルギー量も必然的に

減ってくるかと思えます。ですが、生産量は3倍増なのに対して、この消費量を7割減まで減らすことができる、このデータの裏打ちといたしますか、何か根拠みたいなものがありましたら具体的に教えていただけますとありがたいです。このテーマに興味がありまして。

(高島副議長)

大変高度な、大変よい質問であると思えます。議員の中でも、それぞれ担当する持ち場、常任委員会があります。そこで、担当する分野ごとに色々議論して、審査しますが。環境文教委員会の委員長の寺沢議員、どうですか。

(寺沢議員)

これの裏打ちというか、要は交通であったら、2050年の姿、シナリオを自動車が全てEVやFCVにするとか、建物であれば、ZEB化、ZEH化をしていって、消費を抑え、なおかつ自家発電をしていくとか、あと、産業、再エネ、吸収、学び、行動、こういったものの積み上げ、この結果が、最終エネルギー消費量7割減の再生可能エネルギー生産量3倍増という形になってきています。

では 本当に、このシナリオどおりいくのだろうかと思うんですけども、そういった形になるように、私たち議員も一生懸命働きかけをしながら、事業を見極めながら活動をしていくというように思っています。

こんなお答えでよろしいでしょうか。

(学生⑤)

今、挙げていただいた解決手段というのは、既存の技術を使って可能とするものなんですか。それとも、未知の開発されていないテクノロジーを使った上の減となっているのでしょうか。

(寺沢議員)

当然、今、現状ではないものも今後は出てくるだろうという想定も、少しは入っていますけれども、実際、今、県では、今度4月から始まる5か年計画というものを策定をしている最中であります。

その中でも、その2035年の姿を目指してということで、2035年に長野県がどうあるべきかという中で、その手前の5年間の計画をどう進めていくかということで、今策定をしている最中です。その中で、この5年間で、この2050年の姿にどう近づけていくかというところで、あらゆる事業、取組をしていくということを設定しているところです。

今ない技術も視野に入れてはいますが、まずは、今できることで2050年にどれだけ近づけていくか、そういう取組も今進めています。今、決めている最中です。

(学生⑤)

ありがとうございます。

そういったお話が伺えて、本当によかったです。すごい、将来可能性のある政策だと思ひまして、全国的にみても、長野県の環境政策に打ち出している姿勢は、本当に高いものだと思ひています。長野県民として、長野県すごいなと感じているところなので、ぜひ、頑張ってください。

(寺沢議員)

ありがとうございます。

私たち議員もしっかりと取り組んでいきます。

(高島副議長)

実は、時間が限られてきてしまいました。今、大変高度な質問がありまして、寺沢議員、大変よい御答弁ありがとうございました。

2050年といいますと、今日集まってくださっている学生さん、ほとんど、まだ50歳手前です。今日、お集まりの皆さんお一人、お一人、とても意識が高くて、大変いい時間だったと思ひます。

## ○議長所感

(高島副議長)

時間が迫ってしまったので、最後に、丸山議長から、今回の意見交換、これを踏まえての感想とお礼の御挨拶を申し上げたいということで、丸山議長、お願いします。

(丸山議長)

今日は、大変ありがとうございました。活発な意見交換に感謝を申し上げますとともに、皆さんの今の思いを聞くことができまして、大変有意義な時間だったと思っております。

近年は、先が見えない変化の時代、本当に世代の転換期とも言われている中ではありますが、特にここ3年はコロナというような状況の中で、学生の皆さん方、本当に大変な時期を過ごされたというふうに思っております。

これから、学問のつながりでありましたり、人のつながり、社会とのつながりなど、今後、大変な時代ではありますけれども、ウィズコロナ、アフターコロナに向けて、どう過ごしていくのかということが大変大事になってくるんだと感じているところでございます。

今日は、私はAグループに入らせていただきました。公共交通のあり方につきましても、それぞれ発表がございましたとおり、公共交通の現状とか課題について真剣に意見をいただきました。また、県の活性化に向けた、この果たす役割についても、大学同士の交流が少なく、何らかの形で大学同士が思いを共有できるようなことができないかというような、色々な御意見を賜りました。



大変、我々も参考になる御意見を頂戴したと思っておりますし、これをまたしっかり我々も受け止めながら参考にしていきたいと思いますと思っておりますのでございます。

皆さんは、色々な思いを持っているかと思えます。私の好きな言葉に「凡事徹底」という言葉があります。平凡なことをずっと積み重ねていくと希望になっていく。それが大きなまた、力になっていくということなんだろうと思えます。皆さんは学びを積み重ねて、目標に向けて歩みを進めていただきたい。一步一步積み重ねていただきたいというふうに思っておりますし、目標達成のために、これからも大いにチャレンジしてほしいと思っております。

私の先輩によく言われることがあります、何度も挑戦してみろと。ちょっとは自分の実力より上でも、ちょっと爪先立って頑張ってみろ。2年や3年たったときには、そのかかとや爪先がちゃんと地面についている。実はその積み重ねだ。こういうふうに言われております。

どうか皆さん方におかれましては、本日をきっかけに県議会に関心を持っていただきながら、さらなるステップアップにつなげていただきたい。こんなふうに思っておりますのでございます。

私たち議員は、本日いただいた御意見をしっかり受け止めながら、今後の議会活動に生かしていきたいと思っておりますのでございます。

また、身近で開かれた議会を目指して、これからも本日のような活動をまた続けてまいりたいと思っておりますので、御協力のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

本日は大変ありがとうございました。

以上でございます。

(高島副議長)

丸山議長、ありがとうございました。

## ○閉会

(高島副議長)

以上をもちまして、『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会を終了いたします。

学生の皆様におかれましては、長時間にわたり熱心に御参加いただき、誠にありがとうございました。また、オンラインでの開催ということで、御不便な点もあったかと思いますが、御協力いただき、ありがとうございました。

本日はお疲れさまでした。